

(1) 報告事項

イ 前回（11月27日開催）の調査特別委員会の概要  
について

報告事項ア は別資料

平成30年 1 月 1 5 日

目 次

<報告事項>

県西地域の中心市のあり方に関する調査特別委員会概要 . . . . . 1

(1) 報告事項

イ 前回（11月27日開催）の調査特別委員会の概要について

県西地域の中心市のあり方に関する調査特別委員会 概要	
平成30年 1 月 15 日	
県西地域の中心市のあり方に関する調査特別委員会	
日 時	平成29年11月27日（月） 9時59分から10時51分まで
場 所	第1委員会室
概 要	<p><b>1 議 題</b></p> <p><b>(1) 報告事項</b></p> <p>ア 前回（11月1日開催）の調査特別委員会の概要について ○書記から、資料に基づき調査特別委員会概要について説明をした。</p> <p>イ 市民意向調査（アンケート）の結果について ○資料（小田原市における市民意向調査結果：当日配付）に基づき所管（企画政策課広域政策担当）から説明がされた。 ○参考資料（南足柄市におけるアンケート結果）を小田原市における市民意向調査結果説明後に配付した。</p> <p>&lt;主な質疑、意見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・小田原市のアンケート回収率は40%弱であるが、市で行った他のアンケートと比較してどうだったのか。</li><li>・調査期間が10月16日から10月31日までの間であるが、どのくらいの回収ペースであったのか。</li><li>・アンケートの結果を受けて今後、市民の意向をどのように受け止めていくのが重要と思われる。十分分析をしていただきたい。</li><li>・調査方法として無作為抽出とされたが、若年層の発送件数が少ないと感じる。どのような考えから抽出したのか。</li><li>・若い世代や生産年齢層は賛同できない割合が他の年齢層よりも高いが、これらの年齢層の意向が把握しきれていないのでは。</li><li>・自由記載欄における年齢別の集計は、しているのか。</li></ul> <p>&lt;回答&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・他のアンケートにおいても30%から40%程度の回収率であるため、概ね同様と考える。</li><li>・発送の翌週初めが多い回収であった。</li></ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民基本台帳からランダムに抽出したもので、結果的に本市の人口構成と発送件数がほぼ同じ割合となった。</li> <li>・年齢層ごとの何かしらの不安があつてのことと思うが、若い世代や生産年齢層においても、肯定的な回答は60%以上となっている。また子ども会等の各種団体への説明を引き続き行い、意向の把握に努める。</li> <li>・自由記入欄の年齢層別の集計は現時点では行っていないが、概ね全体に占める各意見の傾向と同様と思われる。</li> </ul> <p><b>ウ 専門的知見の活用について（11月14日 辻教授、高田教授面談結果）</b></p> <p>○書記から資料に基づき、説明を行った。</p> <p>&lt;委員長より&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開催日は平成30年1月28日（日）午後1時15分からとする。</li> <li>・会議録は要点筆記とする。</li> <li>・傍聴議員を含め議員との意見交換を予定したいが、休憩中に行うこととし会議の記録はしない。</li> <li>・久留米市を例に挙げたのは、今後の広域的な行政を考えると、本市と比較がしやすいということである。したがって、委員各位においても事前に久留米市の調査を行うこととする。</li> </ul> <p>&lt;主な質疑等&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鳥取市は中核市移行の作業中のため効果が出ていないことは理解できるが、久留米市は中核市の効果が出ているということの理解でよいのか。</li> <li>・本市は連携中枢都市圏の要件がネックとなっているが、その点はどのような話となるのか。</li> <li>・休憩中、傍聴者はその場にいるのか。それとも別室等で意見交換を行うのか。</li> </ul> <p>&lt;回答&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中核市移行は財政的効果やメリットデメリット、移行に係る成果等が見えにくいことが一つの特徴であるが、久留米市は本市と環境が似ていること、特に本市が将来的に取り組もうとしている広域行政について参考となるということである。</li> <li>・連携中枢都市圏の要件クリアが大きなハードルではあるが、今後、緩和される可能性もあるという中で、お話がされると考える。</li> <li>・委員会休憩中の意見交換ということで、その場には市民傍聴もいる。</li> </ul> <p>・その他開催周知として、広報小田原1月1日号のお知らせの欄に、開催内容を掲載する予定である旨、書記から報告し了承された。</p>
特記事項	
メモ	<p>.....</p> <p>.....</p>